

2022

M3 カリキュラム

医療概論III

シラバス・コースガイド

2022年7月～2022年12月

2020年度入学 第47回生用
2021年編入学 編入学21回生用

M3 医療概論III－1 シラバス・コースガイド

Coordinator: 前野 哲博

Sub coordinator: 堀内 明由美ほか

1. コースの概要

医療概論IIIは以下から構成される。

- 1) 医療概論III－1 行動科学・行動医療学/地域ヘルスプロモーション(7月6日～19日)
- 2) 医療概論III－2 ケア・コロキウム（チームワーク演習）(12月5日～9日)

- 1) 医療概論III－1に含まれる、地域ヘルスプロモーションについては、新型コロナウイルス感染拡大に伴うプログラム変更のため、例年9月以降に実施する地域健康教育実習は中止となり、7月の健康教育企画演習のみを実施する（期間内に一部のテーマで学外地域における実習は含まれる）。詳細は地域ヘルスプロモーション実習書：コースガイド補冊を参照。
- 2) ケア・コロキウム（チームワーク演習）は、医学群と東京理科大学薬学部合同の1週間の職種間連携教育をねらいとしたプログラムである。

本ガイドの3～7については、1) 医療概論III－1の行動科学・行動医療学について記載する。

2) ケア・コロキウムの詳細は、同プログラムの実施にあわせて配布するコースガイドを参照。

2. 筑波大学卒業時コンピテンシーとの関連

・プロフェッショナリズム

豊かな人間性をもって、患者とその家族に対し思いやりと敬意を示すことができる。（レベル1）指導者のサポートのもとで振り返りを行い、自らの課題を明らかにして、その後に活かすためのプランを挙げることができる。（レベル2）

・科学的思考

医学の知識を病態や症候、治療と関連付けて理解し、問題解決に取り組むことができる。（レベル3）

・コミュニケーション

患者および家族に共感、敬意、思いやりをもって接することができる。模擬患者との面接において、心理社会的背景を考慮し、コミュニケーション技法を活用したコミュニケーションをとることができ。模擬患者に対し、病状をわかりやすく説明した上で、相手の意向を尊重したコミュニケーションができる。（レベル2）

グループ学習において、他職種など立場の異なるグループメンバーを尊重したコミュニケーションをとることができる。保健、医療、福祉の現場でケアに関わる各職種の視点や役割の違いを理解できる。（レベル2）

・診療の実践

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を様々な疾患と病態の理解に応用できる。（レベル2）

・医療の社会性

実際の現場で、集団レベルの視点から問題点を抽出し、科学的に分析し、問題解決に取り組むことができる。（レベル3）

実際の現場で、地域のニーズを意識し、地域の特性を活用するよう意識して行動できる。（レベル3）

健康行動に関する理論を活用し、個人・集団を対象とした予防活動を立案できる。（レベル2）

指導の下で個人・集団を対象とした予防活動を一部実践できる。（レベル3）

・未来開拓力

国内外の文献や書籍を検索し、適切な情報を入手することができる。社会における多様性を認識し、受け入れる姿勢を示すことが出来る。（レベル2 行動）

学習の場において、明確化した自らの考えをわかりやすく示すことができる。（レベル2）

場に応じて、自分の考えを相手にわかりやすく、適切にプレゼンテーションができる。（レベル3）

場に応じて教育を実践し、自らの学びを深めることができる。（レベル3）

チーム活動の場において、メンバーと協働し、目標の達成に向けてリーダーシップを発揮できる。（レベル3）

3. 医療概論III－1 行動科学・行動医療学の到達目標(コースにおいて学んで欲しいこと)

- Prochaska の行動変容のステージを列挙し、個々のステージの特徴を説明できる。
- 人々の健康の維持・向上に必要なセルフケアに必要な「ヘルスリテラシー」の意義を理解して、その普及にむけて医療者の果たす役割を述べることができる。
- 一人一人の多様な価値観を尊重し、ライフステージを踏まえ各段階に必要なセルフケア支援の計画を立案し、医学生として参加することができる。
- 将来医療者として患者や地域住民の健康の維持・増進に効果的な働きかけを行えるようになるために、健康行動理論に基づき、個々のライフサイクルをふまえた健康を維持向上のためのセルフケア支援についての計画をたて、学生としてその支援に関わることができる。
- 現代の健康格差社会の実態とそれをとりまく健康の社会的な決定要因(SDH: Social Determinants of Health)を説明できる。
- 社会における多様性(性の多様性など)を認識し、広く受け入れることの重要性を理解する。
- 将来医師としてキャリアを重ねる時に必要なセルフケアを行うと同時に、ワークライフバランスをとることの大切さに気づき、そのあり方の多様性をイメージできる。

4. 学習の進め方

講義・演習(夏休み課題を含む)から構成され、講義では課題実践のための基礎知識を修得する。セルフケア支援演習1, 2では、課題実践のための具体的な計画と実践するためのブラッシュアップを行う。

課題 身近な人へのセルフケア支援の立案と実践

身近な人(家族、友人など)が健康の維持・増進を行うためのセルフケア支援計画を立て、実際に指導を行う。

7月6日 2時間 医療概論IIIオリエンテーション：対面またはライブ配信で視聴

～セルフケア支援の課題を説明する。行動科学と行動変容、ヘルスリテラシーなどのコース内の講義を参考にして、同日4時間の自習時間内にセルフケア支援計画書(ワークシート)を作成して、manabaに提出する。締め切り：同日17時。

7月7日 2時間 セルフケア支援演習1：対面またはライブ配信で視聴

～セルフケア支援計画書(ワークシート)のブラッシュアップ1(総合診療・家庭医療的なアプローチ)

7月12日 セルフケア支援演習2(文化人類学的アプローチ)：対面で参加必須～セルフケア支援計画書(ワークシート)のブラッシュアップを行う。本演習を踏まえて、ワークシートを用いて、セルフケア支援計画書を改訂して、manabaに提出する。(締め切り：7月19日)

ワークシートを提出後、夏休み期間を用いて各自で身近な人へのセルフケア支援を実践し、課題2レポートを作成する。

課題レポートは、下記の構成で記すこと。(フォーマットをダウンロードして使用する)

1) 対象者について

(あなたとの関係、年齢・ライフステージ、どんな生活をしてきたか/今しているか、人生における価値観、など)

2) 対象者の健康に影響を与えてきた/与えている要因

3) セルフケア支援の目的(誰を対象に何を目的とした支援を行うか、その目的が対象者にとってどんな意味をもつか)

4) 支援の方法

・準備(対象者の価値観、関心事についての情報収集、行動変容のステージの分析など)

・上記にあわせたセルフケア支援の方法

・対象者とのコミュニケーションにおける工夫

・効果の測定法(短期、長期)

4) 実践結果

- 5) 考察
- 6) 参考文献

*講義で学んだことに加え、設定したテーマについて、自分で調べたことを実践に取り入れること。
4)の実践結果がもともと目標としていたことに到達・成功したか否かだけでなく、(うまくいってもいかなくとも) 一連のプロセスをふりかえり、うまくいった点と理由やよりよい成果をだすための具体的な改善点を記すことを、課題のねらいとしている。

提出 manaba M3_医療概論III 9月1日（木）まで

この他に、地域ヘルスプロモーションについて、別途実習書：コースガイド補冊を参照のこと

5. 他の授業科目との関連

- ・M2 医療概論 II 行動科学入門で、心と行動のメカニズム、家族のライフサイクル、セルフケアについて学びました。本コースでは更に、他者へのセルフケア支援を行う上で必要な理論を学び、健康教育の実践を学びます。
- ・M5 総合診療科 CC/医療概論 Vにおいて、茨城県内の地域の医療機関において 4 週間の実習を行い、その中で地域における健康教育を実践する他、住民の多様な価値観や健康の社会的決定要因について現場の中で学びます。

6. リソースパーソン

自習やグループ学習で疑問が解決しない時など、積極的に活用して下さい。

教員名

<行動科学・行動医療学>

前野哲博（総合診療科、地域医療教育学 教授）

市川政雄（福祉医療学分野 教授）

吉本尚（総合診療科、地域総合診療医学 准教授）

堀内明由美（総合診療科、地域医療教育学 講師）

阪本直人（総合診療科、地域医療教育学 講師）

小曾根早知子（総合診療科、地域総合診療医学 講師）

川田尚吾（地域医療教育学 助教）

稻葉崇（総合診療科、地域総合診療医学 助教）

7. 教科書・その他の学習リソース

- ・医療・保健スタッフのための 健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 松本千明著 医歯薬出版 2002 年
- ・医療・保健スタッフのための 健康行動理論 実践編 生活習慣病の予防と治療のために 松本千明著 医歯薬出版 2002 年
- ・ヘルスリテラシー～健康教育の新しいキーワード～ 福田 洋、江口 泰正(編著) 大修館書店 2016 年
- ・格差時代の医療と社会的処方～病院の入り口に立てない人々を支える SDH (健康の社会的決定要因) の視点 武田裕子編集. 日本看護協会出版 2021

8. 評価

医療概論IIIの単位取得条件：

- ・下記 1) ~ 2) の全てに合格していること (一つも D 評価がないこと)。
- 1) 医療概論III-1 行動科学/地域ヘルスプロモーション
 - 2) 医療概論III-2 チームワーク演習 (ケア・コロキウム)
- *チームワーク演習 (ケア・コロキウム) の評価の詳細は同ガイドを参照。

- ・コースで実施する講義に3分の2以上出席していること（対面参加での出席登録またはライブ視聴履歴をもって出席とする）

評価に用いる項目、配分など

- ・行動科学の成績は、行動科学テスト(50%)、セルフケア支援レポート(20%)、地域ヘルスプロモーションレポート・成果物(30%)を用いて評価する。
- ・行動科学テストは、テストまでに行う行動科学講義：後述の「10. 講義一覧の講義番号2～6」で扱う内容で、コースを中心となる学習項目を扱う。不合格の場合には、9月以降に再試を行う（後日通知）。
- ・セルフケア支援レポートの評価は、セルフケア支援を実施してうまくいったかどうかではなく、
1)インストラクションに沿った記載か、2)講義と演習で学んだことを生かし、対象者の状況などを分析しそれにそった計画をたて実施したか、3)実施結果を振り返り考察できているか(よかった点と改善点をあげるなど)を、評価する。
- ・ケア・コロキウムについては、同コースガイドを参照。

*留意事項

- ・各種演習の無断欠席および、各レポートの提出がなかった場合はD評価とする（正当な理由がなくレポートの提出が遅れた場合には、行動科学の成績は減点される。）。
- ・体調などにより演習を欠席する場合は、事前に教務を通して、担当教員へ代替え課題などに関する指示をあおぐこと。
- ・最終評価：12月実施のチームワーク演習（ケア・コロキウム）の成績とあわせて、講義時間に基づき分野ごとの成績に重み付けして、合算して算出する。

9. 対応する「医学教育モデル・コアカリキュラム」の項目とそれ以外の学習項目

B-1 社会と医学・医療のうち、B-1-5 生活習慣とリスク、B-1-6 社会環境・環境と健康、B-1-7 地域医療・地域保健、B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度

C-5 人の行動と心理に含まれる項目

10. 講義一覧

行動科学入門に関する講義・演習一覧

| | 学習項目 | 担当教員 | Keywords |
|---|----------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 医療概論IIIオリエンテーション | 堀内 明由美 | ライフサイクル、セルフケア、行動変容 |
| 2 | 行動科学と行動変容 | 阪本 直人 | 行動科学、行動変容ステージモデル、健康行動理論 |
| 3 | ヘルスリテラシー | 稻葉 崇 | ヘルスリテラシー、健康信念、ヘルスコミュニケーション |
| 4 | ライフサイクルとセルフケア支援 | 小曾根早知子 | ライフステージ、ライフスタイル、セルフケア支援、健康の社会決定要因 |
| 5 | 社会と健康格差 | 市川 政雄 | 健康格差社会、健康の社会決定要因、貧困と健康、ソーシャルキャピタル |
| 6 | 多様な個人～ジェンダー／セクシュアリティ | 河野禎之（ダイバーシティアクセシビリティ・キャリアセンター） | 多様性、個人差、SOGI/LGBT、アンコンシャスバイアス |
| 7 | 臨床研究と地域医療 | 前野 哲博 | 地域医療、臨床研究、サンプリング、現場への適用 |
| 8 | 医師のワークライフバランス | 瀬尾 恵美子 | キャリア、ワークライフバランス |
| 9 | セルフケア支援演習1（演習） | 堀内 明由美 | ヘルスビリーフモデル、ヘルスコミュニケーション |

| | | ーション、行動変容 | |
|---------------|-----------------------------------|---|--|
| 10 | セルフケア支援演習 2 (演習) | 木村周平 (人文社会学系) / 照山絢子 (図書館情報メディア系) / 堀内明由美 | 社会環境、価値観、行動規範、文化人類学 |
| 11 ～ 13 | 地域ヘルスプロモーション 講義シリーズ1～3 (オンデマンド視聴) | 吉本尚、阪本直人、他 | アルコール、フレイル、生活習慣病予防、行動変容、離乳食指導、幼児の口腔機能育成、栄養指導 |

11. 時間割

| 7日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|---|---|--|----------------------------|---------------------------------|
| | 7月4日 | 7月5日 | 7月6日 | 7月7日 | 7月8日 |
| 1 | 専門外国语/基礎科目 | 総合科目III | 専門外国语/基礎科目 | MedicalTerminology II | ヘルスリテラシー (稲葉 篤) |
| 2 | | | | セルフケア支援演習1 (堀内 明由美) | |
| 3 | 臨A 試験 #5. 菌と口腔疾患 (13:30～14:45) | 臨A 試験 #6. 妊娠と分娩 (13:30～15:00) | 臨B 医療概論II. オリエンテーション／地域ヘルスプロモーションオリエンテーション (堀内 明由美／川田 尚吾) 10:10～12:00 | 臨B 行動科学と行動変容 (阪本 直人) | 臨B ライフサイクルとセルフケア支援 (小曾根 早知子) |
| 4 | | | 自習(課題あり) | 地域ヘルスプロモーション講義シリーズ2 | |
| 5 | | | | 地域ヘルスプロモーション講義シリーズ3 | 編入学試験準備 |
| 6 | | | | | |
| | 7月11日 | 7月12日 | 7月13日 | 7月14日 | 7月15日 |
| 1 | 専門外国语/基礎科目 臨A 行動科学テスト (前野 貴美、堀内 明由美) | 専門外国语/基礎科目 | 地域ヘルスプロモーション | 地域ヘルスプロモーション | |
| 2 | 臨B 社会と健康格差 (市川 政雄) | 臨A セルフケア支援演習2 (木村 周平(人文社会系)、照山 絢子(図書館情報メディア系)、堀内明由美) | 地域ヘルスプロモーション | 地域ヘルスプロモーション | 地域ヘルスプロモーション |
| 3 | 臨B 多様な個人～ジンダン～セクシユアリティ (河野 植之(人間系)) | 自習(課題あり) | 地域ヘルスプロモーション | 地域ヘルスプロモーション | 地域ヘルスプロモーション |
| M3 | 4 臨B 自習 | 臨B 臨床研究と地域医療 (前野 哲博) | 地域ヘルスプロモーション | 地域ヘルスプロモーション | 地域ヘルスプロモーション |
| 5 | 5 臨B 自習 | 臨B 医師のワークライフバランス (潮尾 恵美子) | 地域ヘルスプロモーション | 地域ヘルスプロモーション | 地域ヘルスプロモーション |
| 6 | | | | | |
| | 7月18日 | 7月19日 | 7月20日 | 7月21日 | 7月22日 |
| 1 | | 地域ヘルスプロモーション発表会 | | | |
| 2 | | 地域ヘルスプロモーション発表会 | | | |
| 3 | | 地域ヘルスプロモーション発表会 | | | |
| 4 | | 地域ヘルスプロモーション発表会 | | | |
| 5 | | 地域ヘルスプロモーション発表会 | | | |
| 6 | | 地域ヘルスプロモーション発表会 | | | |
| | 海の日 | | | | |

時間割には変更が生じる場合があります。最新情報は医学類 WEB 時間割を参照してください。

WEB 時間割 <https://www.md.tsukuba.ac.jp/mdtt/>

M3 カリキュラム
医療概論 II 「行動科学」他
シラバス

2020 年度入学 第 47 回生
2021 年度 編入学 21 回生

2021 年発行
〒305-8575
筑波大学 医学群
